

＜提案者＞所属 蓮花寺町内会 氏名 区長:井上 勉

## 1. 事業計画書

事業名	「蓮花寺の大スギ二世」育成事業	
事業目的	<p>【目的】</p> <p>「蓮花寺の大スギ」は、地元集落だけでなく三島地域や長岡市の宝物である。近年、大杉は環境変化や風雪等により、枝折れや根腐りなどが目立ってきているため、長岡造形大学及び大杉公園指定管理者のグリーン産業の協力をいただき、樹木診断を行い、地元で実施できる保全対策や子孫の保存・育成に取り組む。また、同大学の協力を得て、大杉・大杉公園の案内看板を集落内に設置し、観光客・利用者の利便性向上を図る。</p> <p>これらの活動を通じて、地域全体で愛着を持ち、大杉という大切な宝物を守り育てることを目的とする。</p>	
事業内容	<p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 樹木医による樹木状況の調査</li> <li>2. 調査結果報告（講演会）の開催</li> <li>3. 調査結果に基づく保全・保護活動の実施</li> <li>4. 二世の育成（採穂、さし穂処理、挿し木、圃場での育成など）</li> <li>5 案内看板の設置：2か所</li> </ol>	<p>造形大学上野教授の全面的な協力により、地域内住民・児童や造形大学生が参加して、大杉の調査・学習や看板デザインと製作に取り組む。（上野教授了解済み）</p>
事業実施までのスケジュール	<p>【スケジュール】</p> <p>4月 事業計画関係者打ち合わせ（地元住民、造形大学、グリーン産業）</p> <p>5月 採穂作業、挿し付け作業、樹木診断、大杉枯れ枝等の清掃、第1回ワークショップ（造形大学+地元：現地調査、デザイン検討）</p> <p>6月 第2回ワークショップ（看板デザイン決定）</p> <p>7月 第3回ワークショップ（看板製作）</p> <p>8月 第4回ワークショップ（看板製作）</p> <p>9月 第5回ワークショップ（看板設置）</p> <p>5月～H27.3月 仮植え、圃場での育成、診断結果にともづく大杉保全活動</p> <p>10月～12月 調査報告会（講演会）の開催</p>	
実施主体	蓮花寺町内会	
備考	<p>※2年目以降の樹木育成については、大杉公園の指定管理者である「グリーン産業」の協力をいただき、蓮花寺町内会が主体となって取り組む。なお、苗木が大きくなった場合の植栽地については、樹木医や支所と協議し決定する予定。</p> <p>※新潟県指定史跡（名勝・天然記念物）現状変更等許可申請が必要。（事前協議済）</p> <p>【添付書類】大杉二世「採穂・挿し木関係」作業平面図、工程表、施工要領書</p>	



## 2. 収支予算書

収入の部

(単位：円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金	436,000	
自己資金・特定財源等	自己資金	40,000 蓮花寺町内会負担
合 計	476,000	

支出の部

(単位：円)

項目	予算額	内 訳
報償費	170,000	樹木診断謝金：@50,000円×2人×1日 =100,000円 講演会講師謝金：@20,000円×1人 = 20,000円 ワークショップ講師謝金@10,000円×5回 = 50,000円
旅費	21,000	樹木医旅費(新潟)@4,000円×1人 = 4,000円 樹木医旅費(長岡)@1,000円×2回 = 2,000円 大学生送迎バス借上代 @3,000円×5回=15,000円
需用費	45,000	育苗資材費(プランター、培養土、肥料など) 30,000円 作業記録写真パネル作成消耗品 10,000円 印刷製本費(講演会資料、チラシ) 5,000円
借上料	60,000	採穂作業：高所作業車レンタル料 (車両代、補償料、基本管理料、作業員代)
委託料	40,000	樹木栽培管理委託料 (さし穂前処理、挿し付け管理、仮植等)
原材料費	140,000	大杉・大杉公園案内看板・設置費 ・看板作成材料費等 70,000円×2枚 =140,000円
合 計	476,000	

三島支所・地域委員会から意見・要望に対する回答

事業申請者：蓮花寺町内会

1. 看板デザイン等について、造形大の協力の有無はどうか。

- ・平成 25 年 12 月 12 日、造形大の上野裕治教授に依頼。上野教授は樹木医でもあり一般社団法人日本樹木医会新潟県支部の中心人物でもあるため、看板製作だけでなく、大杉二世の育成事業についても全面的に指導・協力していただけることとなった。
- ・正式な手続きとしては、本来、長岡造形大学デザイン研究開発センターに申請すべきものですが、その場合手数料として全体事業費の 10% をセンターに支払い必要があるため、財源の少ない町内会ということから、上野教授からは、教授の立場で個人研究として協力して下さるとの回答を頂いている。

2. 看板デザインは地元と大学生とワークショップするとのことだが、デザインは大学生、看板作成は地元住民が行うということか？設置時期はいつの予定か？

- ・デザイン、看板作成とも上野教授及び造形大学生と地元児童・大人で行う。
- ・設置時期は、現在の予定では 9 月までを予定。

3. 越後三島竹あかり街道のように授業の一環で実施できないのか。一方が無償、一方が有償というのは整合性がとれない。

- ・上野教授からは、なんでもかんでも授業の一環にはできないとのこと。基本的には、1 地域 1 か所を限度としている。また、すべての地域に入れるだけの時間もとれないのが現状とのこと。
- ・むしろ、越後三島竹あかり事業については財源不足のため、なんとか授業の一環として経費を大学側に負担させているが、それでも不足しており、教授自ら個人的な持ち出しをしながら協力しているとのこと。

【補足】上野教授コメント

- ・竹あかり街道の場合、学生総参加者数約 30 名の内、授業対応は 5 名程度で、あとはボランティア。授業名は「地域共創実習」

4. 看板は市道設置か公園内設置か、公園の場合、指定管理者とも経費負担の協議を。

- ・案内誘導看板を作成予定で、基本的な設置場所は市道敷地内を想定している。もし、市道敷地になる場合は、三島支所担当課と事前に協議する。
- ・実際の設置位置については、ワークショップを通じて、大学と一緒に検討する。
- ・なお、看板の件とは別になるが、指定管理者であるグリーン産業では、本事業に併せた関連イベントを自主事業として実施する予定とのこと。

## 5. 大杉二世の育成したあとの具体的な事業展開はどうか？ 例えば三島地域内に育成

- ・ 育成する杉苗がどの程度成功するのか未知の段階であり、ある程度育成が安定するまでは、地元で栽培管理をする。
- ・ 三島地域全体に配布するほどの採穂は、経費もかかるため行わない。
- ・ 具体的な採穂数・栽培管理方法・育成については、事業採択となり事業費が決定した段階で、上野教授とグリーン産業及び地元町内会で詳細を協議する予定。

## 6. 栽培管理は、誰がどこで、どのように行うのか。

- ・ 栽培管理は、第1段階「さし穂の採取」、第2段階「専用ハウス内で挿しつけと養生」、第3段階「仮植<sup>かりうえ</sup>」、第4段階「圃場での育成」という順番の作業となり、1年目は、第1段階の「さし穂の採取」と、第2段階の「ハウス内での挿しつけと養生」で終わる。
- ・ 2年目からは、第3段階の「仮植え」と第4段階の「圃場での育成」となり、これに必要な期間は、約3年程度となる予定。
- ・ そして、本植え部分の土壌改良後、本植えし養生となりますが、4年目以降となり、順調に行っても平成29年度の予定。
- ・ 栽培管理は、少なくとも「さし穂」の採取はグリーン産業と造形大学の協力により実施し、他の樹種との混合をさけるためグリーン産業の専用ハウス内で「挿しつけと養生」をしてもらう予定。この管理費については、今回申請の事業費の中でグリーン産業に支払いしたいと考えている。
- ・ 第3段階の仮植については、樹木医の診断結果を踏まえて決定したいと考えているが、管理面での確実性を考慮すると、できれば大杉公園内に確保したい。
- ・ なお、三島町時代に作成された大杉公園基本計画には、大杉二世の育成場所を想定しており、実際の公園内に敷地は確保されている。
- ・ 従って、管理については、管理大杉公園の指定管理者であるグリーン産業の協力をいただき、無償で、地元で務めていただいている管理人から大杉公園内で行えたら良いと考えている。
- ・ 最終的な本植えは、診断結果に基づき候補地を決定していきたいと考えている。

7. 樹木医謝金の中で、調査と講演会が予定されているが、具体的な講師名、所在地、調査内容や講演会の参集範囲を説明してください。

- ・ 樹木診断は、樹木医である造形大学の上野裕治教授と、採穂を担当するグリーン産業の八島裕幸樹木医が担当となる予定。
- ・ 上野氏は長岡市内在住、八島氏は新潟市のグリーン産業本社に在籍。
- ・ また、以前に大杉の樹木診断をしていただいた樹木医会新潟県支部の佐藤賢一氏も同行するとのことでした。(上野氏と一緒に県内各地の国や県・市指定の天然記念物を診断されている方) ※報酬は支払わない。
- ・ 樹木診断料については、上野教授の話では、蓮花寺の大杉クラスの大杉になると、通常は少なくとも100万円以上の診断料が必要となるが、佐藤樹木医の所見では、最近大杉を見たが以前より状況は良くなってきているとのことで、上部まで登って診断する必要はないだろうと言われたことから、具体的な樹木診断は、高所作業車や掘削を伴わない範囲で行い、現在の健康状態とスギの保全対策について言及する。内容は以下のとおり。
  - ① 地上部の目視、および手掘範囲での根茎状況による樹勢診断。
  - ② 今後の保全対策
  - ③ 記録写真および診断書の取りまとめ
- ・ 講演会の内容は、次のとおり。
  - ※ 今回の診断結果と保全対策について
  - ※ 樹木単体と生態系について (1本の樹木に数百種の生物が共に棲息している)
- ・ 講演会の対象者については、蓮花寺集落内に限らず、三島全域を対象に周知するほか、一連の取り組みや講演会については、事前に市政だよりやマスコミへのリリースを行い、長岡全域に広く周知したいと考えております。

(参考) 樹木医のプロフィール

■ 上野裕治 氏

1951年熊本市生れ。長岡造形大学建築・環境デザイン学科教授、博士(環境共生学)、技術士(建設部門)、樹木医(平成10年取得、8期生)。1974年東京農業大学造園学科卒業、2010年東京農業大学大学院環境共生学専攻修了。(株)大林組、(株)アーバンデザインコンサルタントを経て1998年ハイランドパーク(有)設立、2006年より現職。

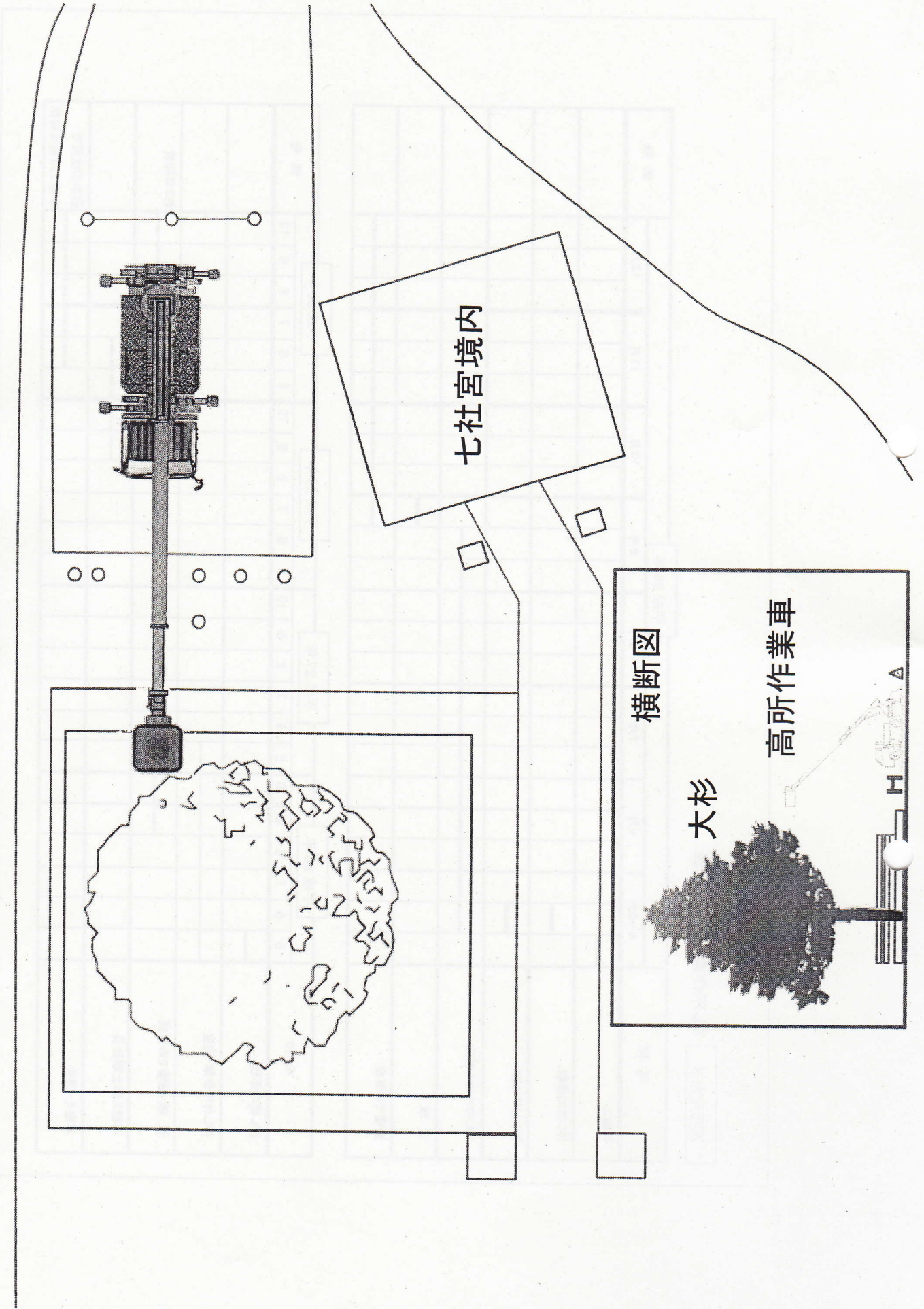
蓮花寺大杉

さし木作業 計画工程表

名称	平成26年												備考	
	4~5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月						
準備工														
押し木の採取														
押し付け作業														
押し付け後の養生														
仮 種														
圃場での育成														

名称	平成26年					平成27年					平成28年					平成29年					備考							
	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12								
押し木の採取																												
押し付け作業・養生																												
仮 種 圃場での育成																												約3年程度
本圃え部土壌改良																												
本圃え・養生																												苗木の状況で 本圃え時期は判断

蓮花寺の大杉 採穂作業図



# 蓮華寺の大杉 さし木施工フロー

## 1 さし穂の採取

- ・3月下旬～4月に、さし穂を採取する(約20～30cm)。枝を切った後は速やかに水につける。

## 2 さし穂の前処理

- ・採取したさし穂を頂芽から15cmの長さに切りそろえる。
- ・約半分の長さまで葉を切り落とす。
- ・よく切れる小刀等で、切り口を切り戻す。  
(1度斜めに切り、反対側から返しを付ける)
- ・規定の濃度に希釈した発根促進剤に切り口を一晩漬けておく。

※さし穂は乾燥させないように十分注意し、常に切り口は水分を保つようにする。



## 3 挿し付け床の調整

- ・鹿沼土:パーミキュライト:ピートモス= 1:1:1にて混ぜ合わせ、用土をつくる。
- ・プランターや発泡スチロールの容器に用土を充填し、たっぷりと灌水をおこなう。



## 4 挿し付け作業

- ・さし付け床を十分に灌水する。
- ・挿す深さより若干浅めに、割り箸等の棒で挿し付け床に穴をあけ、穂の半分の深さまで挿し付ける。
- ・挿し穂の根元を指で押さえ、挿し穂を固定する。
- ・水をたっぷりかける。  
※挿し穂を折らないよう、切り口を傷つけないように十分注意する。また、切り口と用土が密着するようにする。

## 5 挿し付け後の管理

- ・灌水 乾燥させないように定期的に灌水を行う。
- ・寒冷紗かけ 乾燥や風による挿し穂のぐらつきを防ぐため、必要に応じて寒冷紗かけをおこなう。  
※挿し付け後は、挿し木をなるべく動かさない、乾燥させないように十分注意する。

## 6 仮植

- ・当年の秋に、圃場に仮植し育成する。

### 【参考写真】

